

神戸デジタル・ラボ、本社オフィスのトイレの空き状況を確認できるシステムの実証実験を開始 スマートフォンやPCで利用可能、今秋APIの公開視野にサービス化狙う

株式会社神戸デジタル・ラボ(本社:兵庫県神戸市中央区、代表取締役社長:永吉一郎、以下 KDL)は6月7日より、ドアセンサーとクラウドシステムを通信させ、スマートフォンやPCなどで個室トイレの空き状況をリアルタイムに確認できるシステムを開発、本社オフィスビルのトイレで実証実験を開始しました。この実証実験で得られた知見を基にしたクラウド API を開発し、今秋を目途に公開する予定です。(API: Application Programming Interface)

■トイレ空き状況確認の有用性



KDL 本社オフィスでは以前から時間帯によって個室トイレの混雑が発生すると不満の声が上がっていました。オフィスからトイレまでは ID カードを用いてセキュリティドアを通りトイレにたどり着くと個室が満室だった、というケースが頻繁に発生することは日常的なストレスを上げる要因ともなりえます。これを受けて KDL 新事業創造係 IoT 班ではクラウドシステムと通信するドアセンサーを開発。個室のドアに取り付けクラウドにデータを蓄積、スマートフォンやPCから個室ドア

の利用状況を確認できるアプリケーションを開発しました。実証実験開始後は、本社オフィスの全社員にアプリを公開し、社員がトイレまで行かなくても個室トイレの利用状況を確認できるようになります。また、実証実験中に得られる利用状況データから混雑緩和などの対策につないでいくため、データ分析などは KDL が EC システムなどの開発で培ってきたデータ分析技術の応用を検討する予定です。(写真左上:トイレ扉上部に取り付けたセンサー、右上:空き状況確認アプリ)



■KDL クラウドドアセンサーAPI(仮称)

実証実験ではドアセンサーからクラウドに送信されたデータを、API を通じてアプリケーションでリアルタイムに表示します。KDL では、実証実験での開発・運用をもとにドアセンサー向けクラウド API を開発し、今秋を目途にベータ版を公開する予定です。その際に実証実験に使用したドアセンサーやアプリケーションをオープンソースとして公開し、同様のサービスを幅広く利用いただけるように整備することを予定しています。

■「新事業創造係 IoT 班」とは?

KDL では 2016 年 4 月より、新たな事業を生み出すべく「新事業創造係 IoT 班」という新たな部署を設置しました。この部署では「IoT(Internet of Things:モノのインターネット)」をテーマにさまざまな取り組みをしていきます。実証実験は 3 か月間を予定しており、KDL では、この実証実験結果をもとに今秋を目途にトイレセンサーのサービス化を目指します。



■今後の展望

「会議室の空室管理や公共の市民トイレなどにも設置したい。2020 年開催の東京オリンピックに向けて、海外の方にもトイレの場所と空室状況が分かるような仕組みを作りたい。競技場だけでなく周辺の地域も過ごしやすい環境であれば、集中してオリンピックを楽しんでいただけるのではと考えています」(新事業創造係 IoT 班 中西波瑠、堀尾風仁)

■KDL クラウドアセンサーAPI ニュースレター購読お申込フォーム

ご興味のある方は、以下のフォームより専用のニュースレターを購読いただけます。

<https://goo.gl/qakgD8>

【神戸デジタル・ラボ 企業概要】

代表者 : 代表取締役社長 永吉 一郎

所在地 : (神戸本社) 〒650-0034 神戸市中央区京町 72 番地 新クレセントビル
(東京支社) 〒105-0011 東京都港区芝公園 2-3-27 芝公園 PR-EX ビル 5F

設立 : 1995 年 10 月

資本金 : 2 億 995 万円

従業員数 : 169 名(2016 年 4 月 1 日現在)

URL : <http://www.kdl.co.jp/>

【プレスリリースに関するお問い合わせ先】取材など随時対応しますので、お気軽にお問い合わせください。

株式会社 神戸デジタル・ラボ 新事業創造係 IoT 班

担当:中西 堀尾

TEL :078-327-2280

MAIL :info@kdl.co.jp